

相談室だより (みさき・くろさき 2009年1月)

担当：みさき病院 MSW 緒方

2009年も年が開けて、早いものでもう1ヶ月がたとうとしています。年末年始は「派遣切り、派遣村」等、私たちの労働のあり方が改めて考えさせられました。今回は、「生活・健康・労働」相談会での出来事をお知らせします。

「働くこと、生活すること・・・。」

1月21日の「生活・健康・労働」相談会でのことです。僕は、ハローワークに来所された方に、「生活・健康・労働相談会」の案内ビラを配っていました。その中に50代の男性(Aさん)が「何の相談でもいいんですか？」と足を止めていただきました。「ハイ、お仕事のこと、健康のこと、何でも結構ですよ」と返答すると、「あっち(ハローワーク)に行ってから、また来ます」との返事。なんだか、思いつめたような表情でした。

30分後、Aさんが相談にやってこられました。まずは、血圧の測定等の検査をされ、それから、炊き出しの「豚汁」を食べられ、そして、食べながら僕のところに来られました。おそらく、これから話される内容を「相談」という形で行なうのには勇気が必要とされたのでしょうか。だから、立ち話という形で、相談は始まりました。

『あの看板を見てやって来たんです。誰に相談していいか、分からなくて・・・』とAさん。ちょうど、側に米の山病院の橋口院長がいらっしやっただので、僕と2人でAさんの話を聞きました。

Aさんは50歳、派遣が昨年末に切れて現在休職中(仕事の内容は夜警)。

奥様と5歳になる子供と3人暮らし。現在の収入は、奥様のパート収入のみ。

一番の心配は、健康保険がないこと、国民健康保険に加入しようとしたけど、保険料が高くて払えなかった。5歳の子供が病気にかかったらどうしようということでした。

仕事はないわけではない。しかし、採用には「年齢の壁」がある。30歳~55歳の求人では、面接までは、こぎつけるが採用となると若い人が優先される。年齢不問の求人では、実際に働いてみると、とんでもなく劣悪な労働条件である場合が多い。

僕と橋口院長は、『保険がなくても、心配があればまず親仁会(米の山病院やみさき病院)においで下さい。診察や相談に応じます』と伝えました。その上で、子どもの無保険問題や国保44条、無料定額診療のことなどを説明しました。Aさんは、ホッとされた表情で『いいんですか？ありがとうございます』と、橋口院長からもらった名刺を大事そうにポケット

トに直されました。

ここで、Aさんの状況について考えてみましょう。

派遣業・派遣切り；大牟田でも、「エム・シー・エス」三井金属の子会社(手鎌で、主に薄型テレビの基盤の製造をしている)で、'09年3月までに、260名(期間工・派遣・パート)を解雇予定。実際は、260名以上の解雇になる見込み。

派遣で寮に入っている労働者の生活実態は、寮費等が給与から天引きされるので手取りで10万円程度。(大牟田建交労からの情報)

国民健康保険料；国民健康保険の2007年度財政状況によると、保険料(税)を払えない滞納世帯が約453万世帯('08年6月時点)と加入世帯の20.9%となっている('09年1月厚労省調べ)。

子どもの無保険；中学生以下の子ども約3万3000人が「無保険状態」になっていた問題。'08年秋の国会で審議され、来年4月1日から施行する。保護者が保険料を滞納していても、子どもが医療機関で受診した際に国民健康保険が適用される。

このように、Aさんを取り巻く状況はAさんにとって、非常に厳しいものです。もし仮に、Aさんが病気をしても、保険がないので病院にかかれず、病気は悪化、家族は更に困窮してしまいます。このように、少し足を滑らすともう這い上がることが出来ない社会構造になっていると思います。実は、この社会構造はAさんだけでなく、私たち市民の一人一人を取り巻いているのです。そして、このことに気付かないと、Aさんが冒頭に話されたような『誰に相談してよいか分からない』状態になるのです。更には、『仕事が見つからないのは、自分の能力のせいだ』『ダメな人間なんだ』等、自分を責めることになりかねません。その結果が、年間3万人を超える自殺者にも現れていると思います。

まずは、『困っている人を一人にしないこと』。これが、ものすごく重要なことと感じました。Aさんにとって、橋口院長の名刺は、「他者との繋がり・頼れるところ」になっていることでしょう。